

いこい通信

第15号

2022年3月

発行 一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム

「いこい通信」は、宮城県内で避難者支援にあたられている方々に、福島県からの県外避難者（広域避難者）の置かれている状況や、宮城県内・他地域における支援活動の様子等をお伝えする情報紙として発行しています。自らの意思に反して全国への分散避難を余儀なくされた方々が、避難先で適切な支援につながっていくための一助となることを目的としています。

■ 広域避難者全体交流会「正月花を生けて新年を迎えましょう！」を開催しました。

福島県から宮城県内に避難されている方々を対象とした「ふくしま仙台サロン」の一環として、通常のサロンより対象者を広げて呼びかけた全体交流会「正月花を生けて新年を迎えましょう！」を2021年12月26日（日）に宮城県仙台市内にて開催しました。福島県浪江町や南相馬市から避難されている19名が参加しました。

2014年度から、「生け花教室」や年末の「クリスマスリース作り」などの交流企画にご支援をいただいている「つなげよう花の心実行委員会」の先生方にご協力いただき、年末年始に自宅で飾れるよう、お正月の生け花を体験しました。



コロナ禍が続いている中、生け花教室は2年ぶりの開催でした。久しぶりに再会し、おしゃべりを楽しみながら生けている方や、今回初めての生け花で真剣に先生に質問する方など、それぞれに楽しい時間になりました。生け終わった後は、お互いの作品の鑑賞をしたり、今後の交流会の企画を話し合ったりして交流を深めました。

この全体交流会は、日本財団助成事業「広域避難者の繋がり維持・充実にに向けた伴走支援の実施」の一環として開催しました。

つなげよう花の心実行委員会

いけばな作家の皆さんが流派や団体の垣根を越えて集まり、「いけばな作家として『被災地の花を使う』ことで、花卉生産者にエールを送りたい」という思いで2012年夏より始まった、東日本復興応援プロジェクト。

作品の展示やライブパフォーマンスを中心としたイベントを都内各地で開催、そこで集まったご厚志をもとに資材を購入し、各地で避難者を対象としたいけばな体験教室を開催していらっしやいます。

ホームページ <https://tsunageyouhana.jimdosite.com/>

Facebook <https://www.facebook.com/tsunageyouhana/>

宮城県内で活動されている広域避難者グループ紹介

(2) 交流サロンさくら

東日本大震災と福島第一原子力発電所事故の影響により、福島県から宮城県内に避難されている方（広域避難者）は現時点でも 2,726 名にのぼります。（2022 年 2 月 福島県発表資料）

避難生活が 12 年目に入中、宮城県内でも、いくつかの広域避難者の集まりや、そういった集まりを支援する動きが続いています。今回は、震災後、宮城県柴田郡柴田町内に避難された方々の集まり「交流サロンさくら」の活動を支えていらっしゃる柴田町社会福祉協議会の八島裕晃さん、大庭三余子さんからお話を伺いました。

サロンの始まり

震災後、宮城県から町役場に「柴田町に避難してきている世帯が 250 世帯いる」という情報提供がありました。それを受けて柴田町と柴田町社会福祉協議会では、2013 年 1 月に町内の避難世帯を対象に交流会を開催、12 世帯 17 名の避難者の方が参加されました。

このような交流会を定期的で開催することが大事という話になり、2013 年 3 月 5 日に「交流サロンさくら」の第 1 回目を開催しました。それ以降、月命日の 11 日に近い 10 日とか 12 日に毎月継続して開催しています。

最初のサロン参加者は石巻市から避難されたお 1 人でした。その方が知り合いの方に声掛けしてくれたり、社会福祉協議会からのお便りや、町広報お知らせ版（毎月 2 回全戸配布）への掲載、民生委員からの声掛けをしたりする中で、参加者が少しずつ増えていきました。

町で始めたことを社協が引き継ぐ形になりましたので、守秘義務を守って運営する前提で、社協側で避難者の皆さんの個人情報をお預かりしてサロンを開

催しています。

サロンの運営について最初は社協職員が対応していたのですが、サロン参加者から柴田町内の方とも交流したいという話があったのと、ちょうど傾聴ボランティアの会「傾聴の会ほのぼの」が生まれたタイミングであったこともあり、2014 年度からは、「ほのぼの」の皆さんに運営に入ってもらい、一緒に交流するようになりました。

当初は、避難世帯 250 世帯全体にご案内していましたが、今は、お知らせを送っているのは 25 世帯となっています。こちらに家を建てられたか、お子さんと同居されている方が多いです。

現在「交流サロンさくら」の常連は 5 世帯です。福島県双葉町からの方と、県内の南三陸町、石巻市、亶理町から来られている方が参加されています。お 1 人で参加される方と、ご夫婦で参加される方と両方いらっしゃいます。

以前は、福島県の南相馬市や新地町からの方もいらっしゃいましたが、今は、それぞれの地元に戻られています。

サロンの様子

最初の頃は、避難者どうしの交流が大切ということで、自由にお話いただく場として運営していました。その後、サロンでお話するだけでなく、何か催事があっても良いのでは、ということになり、今は毎月、地域のアマチュアのアーティストによる「サロンコンサート」と一緒に開催するようになりました。

コンサートを聴いて帰られる方も、その後におしゃべりをしていられる方もいらっしゃいます。

サロンの内容は様々です。手芸やクラフトをしたり、季節によってお花見や芋煮会、お雑煮づくりをしたり、お雛様やこいのぼりを飾ったりする会もあります。

お雑煮づくりは各地の味があり面白かったです。参加者からもまたやりたいという声がありました。芋煮会は、社協の花壇を耕して作った野菜を使って収穫祭を兼ねてやりました。いつもは、社協の建物（柴田町地域福祉センター）の中で開催しますが、芋煮会などは、社協の敷地内のウッドデッキに簡易テントを張ってやります。

サロンの材料は皆さん持ち寄りで作っています。お雑煮を作るときは、皆さんから材料代を集めたりしますが、そうした会計や段取りも「ほのぼの」の皆さんにやっていただいています。お茶菓子はみやぎ生協のフードバンクから提供いただいています。

最初の頃は交通手段がない方のために社協職員が送迎もしていましたが、最近では参加者同士での送迎や、ボランティアさんによる送迎などが始まったので、皆さんにお任せするようにしました。

社協はサロンの場所を提供し最初と最後に職員が顔を出す程度で、あとは参加者と傾聴ボランティア

の皆さんで運営されています。サロンの内容も皆さんで決めていますね。畑で〇〇が出来たので、〇〇を作ろう、など。社協がするのは、参加者の皆さんへのご案内やサロンコンサートの段取り程度。半分くらい自主運営の状態です。職員がフェードアウトし、住民同士が交流することが大切だと思っています。



「交流サロンさくら」の様子
(取材日 2021/8/6 柴田町地域福祉センター)

コロナ禍の影響と今後

新型コロナウイルス感染症の影響のため、サロンを含めた社協の活動がすべてお休みになった時期もありました。その間はお便りのみでした。2021年に入ってから、2月から活動を再開、距離を保ち1時間以内で終わるようにするなど工夫して開催しています。

参加者の方からは、コロナがおちついたら福島県双葉町の伝承館にみんなで行きたいという声もあります。石巻に行く予定もあったのですが、コロナでまだ行けていません。



ヒアリングの様子

(取材日 2021/7/7 柴田町地域福祉センター)

町広報のお知らせ版には、サロンを開催していることは継続して掲載していますが、最近は問い合わせはありません。特に若い方は、平日、日中の参加は難しいのではないかと考えています。今から大幅に参加者が増えるようなことはないでしょうね。

社協から出すご案内に対して、生活再建したのもういただかなくて良いという良い意味でのお断りの連絡があったり、参加できないがありがとう、御礼の手紙をくれる方もいらっしゃったりします。

社協にとって、このようなサロンは当たり前の活動ですので、終わりにする予定はありません。参加者の皆さんから教わることも多くあります。違う地域から来られた方々の視点も大事にしたいと思っています。

<関連情報>

- ・柴田町社会福祉協議会 ホームページ
<http://www.s-shakyo.jp/>

サロンの方の
クラフト作品



■ バスでお出かけをする「移動交流会」を継続しています

コロナ禍が続く中、外出を躊躇することで、交流の機会を失っている避難者が一定数いらっしゃることから、自宅に近いところで乗車できるように借上バスを運行し、移動中の感染対策を徹底しながら屋外等で交流を深める「移動交流会」を3回実施しました。

●第1回移動交流会「伊豆沼はすまつりに行きませんか？」

日時 2021年8月19日(木) 8:00~17:30

会場 伊豆沼・内沼(栗原市・登米市)~遠田郡美里町~大崎市内

参加 12名(浪江町民11名・南相馬市民1名)

夏の時期、毎年ニュースに出る伊豆沼の「はすまつり」を見学に行きました。今年は、近年にない花の数とのこと。沼一面に花が咲く素晴らしい風景を見ることができました。ピークを少し過ぎていたせいかな人出は少なく、ゆったりと船に乗って、花を満喫できました。美里町の農家レストラン「野の風」を借り切って昼食をいただいた後、美里町内、大崎市内で買い物をしながら帰途につきました。



●第2回移動交流会「気仙沼湾をクルージングしませんか？」

日時 2021年10月17日(日) 8:00~17:30

会場 気仙沼市内

参加 14名(浪江町民13名・南相馬市民1名)

震災を経て2015年に運航を再開した「気仙沼ベイクルーズ」を体験しに、気仙沼市まで足を延ばしました。すっかり新しくなった内湾地区を出港し「おかえりモネ」の舞台にもなった気仙沼大島を巡る約50分の船旅を満喫、日頃のストレスも忘れ、リフレッシュできる時間となりました。

●第3回移動交流会「浪江町に戻られた方と一緒にバスでお出かけしませんか？」

日時 2022年1月12日(水) 7:00~18:50

会場 福島県浪江町内~茨城県ひたちなか市内

参加 15名(浪江町民)

宮城県に避難されている方が借上バスで移動、途中、浪江町に戻られた方をピックアップし一緒に茨城方面に向かう交流会として開催しました。バス車内でそれぞれの地域での暮らしぶりなど近況を共有しながら移動。移動先のひたちなか市内では名産の干し芋の買い物などを楽しみました。



開催にあたっては、検温の徹底や移動・交流中のマスク着用、バス車内で1人2座席を確保、乗車の際や立ち寄り先での手指消毒などの感染対策を徹底しました。この移動交流会は令和3年度福島県県外避難者帰還・生活再建支援補助金の補助を受けて開催しました。

【発行者・連絡先】

一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム

〒984-0065 宮城県仙台市若林区土樋 254 ニューメゾン土樋 201

電話：022-353-7550 FAX：022-397-7230

メール：info@tohokuconso.org

Web：http://tohokuconso.org/

「いこい通信」は2021年度日本財団助成事業の一環として発行しています。

Supported by

THE NIPPON
FOUNDATION